

「こころBook」創刊

思いやり活動冊子に

「こころの再生」府民運動 実践8高校を紹介

府教委

7/20
日 21

大切な心や行動を呼び掛ける「こころの再生」府民運動を巡り、主導する大阪府教育委員会は、積極的な実践校を紹介する冊子「こころBook（ブック）」を発行した。創刊号には、府内の高校8校の活動のこみ掃除といった独創的な取り組みを示し、担当者は「一人一人が身近な行動を起すきっかけになれば」と思いを込めている。

（加屋宙麿）



思いやりに あふれたこころ



えりすべりの取り組みをまとめて創刊した「こころBook」大阪府中央区

同運動では、子どもの話をしっかりと聞こう▽「おかげさんで」をもって大切にしようーなど七つの行動を推奨。このうち、「ええもんはええ」と、はっきり褒めようという項目を府教委自身が具体化するため、冊子を企画した。

取り組みの輪を広げ、児童、生徒の学校生活が豊かになるのを目指し、継続していくという。

掲載したのは、優れた取り組みを表彰する制度のうち、2020年度に選出した高校。門真なみはや高については、新型コロナウイルス禍で外出を控えたり、親族の面会が制限された福

祉施設に入居中の高齢者を対象とし、生徒が励ましの手紙を書く「文通プロジェクト」を展開した様子を解説した。

岬高では、同好会が学校の立地を生かし、海岸に漂着したプラスチックごみや海上のごみを回収。三島高は、小学校とのクラブ交流を継続しているのをそれぞれ伝えた。

6月には、府内の公立中3年と支援学校中学部3年に冊子を配布。進路選択の時期を迎えた生徒らに、偏差値とは違う各校の特色を伝えた。

泉佐野市の中3生からは「海の美化活動は、今の時代に合っている」「思いやりの心が大事だと思った」といった感想が寄せられた。スマートフォンを使い方を巡る取り組みや、クラブ活動の発表の場づくりが掲載された野崎高の笠井博校長は「頑張っている生徒への励みとなった」と喜ぶ。

冊子は、府ホームページからダウンロードでき、府教委の担当者は「気持ちのいいあいさつが学校にあふれたり、思いやりのある言葉や行動が増えてほしい。一人一人が、身近な行動を起すきっかけになってくれれば」と力を込めていた。